

令和 7 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム アミーチ

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0391300100		
法人名	社会福祉法人共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	〒028-6721岩手県二戸市似鳥字上平15-1-2		
自己評価作成日	令和7年9月11日	評価結果市町村受理日	令和7年12月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営理念である「ひとりひとりの思いを大切に」を心に刻み、利用者様やご家族の声を聴き、思いを実現できるよう努力を重ね、職員間で共有している。四季折々の風景を楽しんでいただけるよう、散歩、外出、行事等を通じ、利用者様に笑顔になってもらえるようアクティビティ活動にも力を入れている。1人ひとりの出来ることを把握し、日常的な家事を職員と一緒に行ない、心身共に健康で安心して過ごせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、二戸市西部の緑に囲まれた丘陵に位置している。開設20年以上を経過し、地域に根付いた事業所として幼稚園、小学校との交流が行われ、天気の良い日には、利用者は施設周辺を散歩したり、事業所の畑の野菜の収穫や草取りを楽しんでいる。8月には、隣接する同法人の特別養護老人ホームと合同の夏祭りを開催し、利用者・家族の他、地域の方が多数参加しており、特別養護老人ホームとの連携は、緊急時の対応等も含め事業所の強みとなっている。「ひとりひとりの思いを大切に」という理念に沿って、入居時に本人・家族の協力を得ながらアセスメントシートを作成し、生活歴や馴染みの生活環境、好みの把握に努めている。本人の思いを中心に身体状況のみならず、本人の心や生活歴、人とのつながり等を大切に、利用者の良いところを生かすケアに努めている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月30日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を事業所内に掲示しており、毎月の会議時に資料にも載せ職員の意識付けを行なっている。理念は職員間で共有し日々念頭に置きながら支援している。	事業所の基本理念を「ひとりひとりの思いを大切に」として10年以上継続している。この理念は事業所の共有スペースに掲示され、毎月の会議資料の先頭に記載している。職員は、この理念に基づいて、個々の利用者に関わり生活の様子を観察しながら、それぞれの思いを汲み取るよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の小学校から運動会や学習発表会の招待をいただき、地域の子供たちと交流している。理美容は定期的に地域の美容院へ依頼し訪問してもらっている。施設の夏祭りの際は地域住民へチラシを配り、多くの方に来ていただいた。毎年恒例の打上花火も地域住民の楽しみとなっている様子。	地元の小学校から、運動会や学習発表会の案内があり、見学に行くのが恒例となっている。8月には、隣接する特別養護老人ホームと合同の夏祭りを開催し、屋台に利用者・家族の他、地域の方が100名以上参加した。施設長や管理者がこの地域の住民であることもあり、地域との交流は活発で、打上花火も継続している。地域の方からは野菜の差し入れがあり、高校生や専門学校生の実習等の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	小学校の行事に参加し交流することにより、理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では運営状況の報告や事故報告などを行ない、委員のメンバーから出された意見は職員間で共有しサービスの向上に努めている。	利用者家族や民生児童委員、二戸市職員、特別養護老人ホーム施設長、法人の評議員、監事が委員となり、2か月ごとに運営推進会議を開催している。法人評議員の中には元民生委員もおり、ボランティアとして理美容サービスに同行し、直接利用者との関わりを持っている。会議は事業所のオープンスペースで開催し、サービス提供の様子も見いただしている。	運営推進会議の司会と記録はいずれも管理者が行い、会議後に職員へ回覧されていますが、今後は記録の役割を管理者以外の職員が担うなどの分担を行うことにより、事業所職員と地域の接点を広げていくことが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には行政職員も参加し、情報や助言をもらっている。また、地域ケア会議にはなるべく参加するようにし、出席できない時は資料をもらい適時情報を得ている。災害に関する情報は、借用している防災ラジオで早い段階での情報収集が可能である。	二戸市の高齢福祉担当課の職員が委員となっており、要介護認定等の際にもやり取りがある。加算の算定方法については広域行政事務組合へ相談している。管理者が地域ケア会議に参加し、地域の情報を得ており、災害に関する情報は防災ラジオを行政から借用している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内の定期的な研修の他、3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し、具体的な事例を上げ注意を促している。施錠は夜間のみ防犯上行なっている。	現在、身体拘束に該当する事例はない。隣接する特別養護老人ホームとの合同研修実施の他、事業所の身体拘束適正化委員会を年4回開催している。虐待防止はもちろん、スピーチロックの防止に関しては具体的な言い換えを考えるように工夫している。転倒防止のためのセンサーマットは使用せず、施錠も20時～7時の夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	施設内研修の他、定期的に事業所内でも研修を実施し、具体的な事例を通して意識付けを行なっている。利用者の身体にできたアザなどは写真を撮り記録に残している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修には管理者が参加し、職員へ復命している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には丁寧な説明を心掛け、理解、納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には毎月広報と、担当職員からのお便りを送付し、生活の様子を伝えている。通院や面会等の機会を活用し、要望を聞く機会としている。今年は、昼食外出、墓参りや法事、買い物などの外出支援を行なった。	入居時に本人・家族の協力を得ながらアセスメントシートを作成し、生活歴や馴染みの生活環境、好みを把握するよう努めている。利用者からは「食べたいもの」「行きたいお店」「パーマをかけたい」「髪を染めたい」、家族からは「会食したい」「お墓参りに連れて行きたい」等の希望があり、ほとんどの希望や意向に対応している。	

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の事業所の会議時に、職員からの要望や提案を聞く機会を設け、業務改善や働き方改革に取り組んでいる。年2回、経営者との面談もあり要望を伝える場がある。	職員の意見や要望は、理事長と年1回、施設長や管理者と年2回の面談時に確認している。休みの希望については、有給休暇を時間単位に取得できるように改善した。人間関係についての相談も法人内の異動等により改善を図った。環境面の修理・修繕、家電製品の買い替え等は、話があれば必要に応じ直ちにに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を行ない、自己評価、2次考課、3次考課と適切に評価している。フィードバックも行ない職員と管理者との面談の機会もある。育休明けの職員だけでなく、皆が有給休暇の取得向上を目指し、職員の協力を得ながら取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修は計画的に毎月実施している。法人外の研修に参加した職員は資料等で、参加しない職員も情報共有できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者個々のネットワークで他事業所と情報交換する機会があった。相互訪問の機会は無かったが検討したい。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人の意向などを丁寧に聞き取り、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族から意向などを丁寧に聞き取り、良好な関係づくりに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人が安心して新しい環境に馴染み、自分の居場所や過ごし方を見つけられるよう日々観察を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来ることはやっていただきながら、一緒に作業し、自信を持って過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	通院や面会の機会などを活用し、折に触れ協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設で開催した夏祭りに家族も招待し、一緒に楽しむことができていた。馴染みの店での買い物や散髪をする方もあった。	特別養護老人ホームと合同で開催した夏祭りには家族も参加した。家族と一緒に行きつけのお店やお墓参りに行く方もある。親戚から手紙を受け取った際に、本人が返信の手紙やハガキを書く時はその支援も行っている。現在、携帯電話を所持する利用者はないが、本人が家族と連絡を取りたい時は施設の電話を使用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性等を把握し、お互いを尊重しあえる良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ほとんどの場合、隣接する特養への入所でサービスが終了となる。その際、必要な情報を提供し、退居後も相談等に応じ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の何気ない会話を大切にし、本人の思いを汲み取るようにしている。得意なことはなるべく活かせるよう支援している。	現在は意思表示が可能な利用者が多く、日常会話の中から本人の思いや意向を確認するよう努めている。職員は優しい表情や声色を心がけ、本人が希望を言いやすいような環境づくりに努めている。風呂や台所で思い出話を始められる方もあり、その際にはゆっくりと傾聴することを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを活用し、家族や本人から聞き取りを行い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	情報は連絡ノートの活用や申し送り等で共有している。会話や表情、行動からその時の気持ちや体調の変化に気を配って様子観察を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、ケアマネジャーが居室担当者の意見を参考にしながら原案を作成し、サービス担当者会議で決定している。モニタリングは居室担当者が中心となって行なっている。	居室担当者がモニタリングを行い、「アミーチ会議」で共有した内容をもとに、ケアマネジャーが介護計画の原案を作成し、6ヵ月毎に見直しを行っている。アセスメントは本人の思いを中心とし、身体状況のみならず、本人の心の状態や生活歴、人とのつながり等にも視点を置き、強みや良いところを生かした介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づきを個別記録に記入し、申し送りノートも活用しながら情報を共有している。情報は介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院の付き添いや送迎など、その時の状況や要望に合わせて柔軟に対応している。必要に応じ金銭管理を行なっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	通り慣れたスーパーや馴染みの店での買い物、定期的に来訪してくれる地元の美容師やボランティアとの会話など、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続している方が大半で、通院は家族が付き添っている。通院時には通院カードを活用して報告や相談を行ない、適切な医療を受けられるよう支援している。また、必要に応じて皮膚の状態などを画像にプリントし情報提供している。	受診は家族の付き添いを基本としており、現在は全員が入居前からのかかりつけ医に通っている。通院時には担当者が事業所での様子を記録した「通院カード」を家族が持参している。事業所の協力医療機関は県立二戸病院であり、月1回は協力医療機関と法人関係者とのオンラインでの会議を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調面や処置の方法など不安なことがあれば、適時併設の特養の看護師に相談し助言をもらっている。また、管理者が、毎月行われている県立二戸病院との医療連携会議に出席し相談する機会もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供し、退院時にはカンファレンスに出席し、退院後も安心して過ごせるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の説明の際に、看取りは行っていないことを伝えている。重度化した場合は隣接の特養へ住み替えとなるケースがほとんどである。	事業所として看取りを行っていないことを入居時に利用者・家族に説明しており、介護度4以上になった時点で他施設への申込を勧めている。現在は、隣接の特別養護老人ホームへの住み替えが最も多い。看護師の配置はないが、緊急時の対応に関しては、隣接する施設の看護師へ内線で連絡し、対応を依頼することができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えて定期的にマニュアルを見直したり、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月様々な想定での避難訓練を実施している。年2回は隣接の特養と合同での避難訓練も実施している。	ハザードマップ上は土砂災害のリスクがある。このため避難訓練は、火災、土砂災害、地震を想定し、災害によって使用する非常口を変えながら毎月実施している。この他に、隣接している特別養護老人ホームと合同で年2回避難訓練を実施している。食品3、4日分、発電機、反射式ストーブ、ガスコンロ等の備蓄がある。	夜間想定訓練が昼間に実施されていますが、実際に夜勤職員1名で対応する際の動きを確認しながら、避難時の課題や危険個所の把握を行うことが期待されます。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃から利用者の気持ちに寄り添い、丁寧な言葉遣いを心掛けている。声の大きさやその場の雰囲気作りにも気を配り、プライバシーにも配慮している。	若い頃にしてきた得意なこと(仕出し屋さんは台所手伝い、農家の方は畑仕事など)、本人が得意でやりたいことを尊重するよう努めている。プライバシーに関しては、トイレやお風呂はカーテン等で仕切れるようにし、声がけの際にも羞恥心に配慮している。個人記録の保管は、タブレット、スマホ、PCにて守秘義務が守られるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が声をかけやすい雰囲気、環境作りに努めている。会話や行動から、本人の思いを見逃さないよう気を配り、自己決定できるよう働きかけている。自己決定が難しい場合は選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員が大まかな活動内容を決め、その中で本人が選択できるよう工夫している。特に希望がない場合は気が向くような誘い方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みの服や季節に合った服装が出来るよう支援している。適時家族へ連絡し馴染みの衣類があれば持ってきてもらっている。入居前からの行きつけの美容院へ家族と一緒に外出する方もいる。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム アミーチ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれに役割を持ってもらい食事の準備から片付けまで一緒に行なっている。昼食お楽しみ会や手作りおやつを行事に取り入れ、食を通して楽しんでもらっている。また、メニューには本人や家族から好みを聞いて取り入れている。	朝食、昼食、夕食はすべて職員の手作りで、利用者の意見を取り入れながら、献立は1ヵ月ごとに職員が作成している。食材の買い物には利用者が同行することもある。季節によって畑で収穫した食材を使用し、敬老会、正月等の行事食、おやつ作りも楽しんでいる。マグカップ、茶碗は本人が自宅から持参したものを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの摂取状況や、病歴などを考慮しその人に合わせた量や形態を提供している。特に夏場は水分不足にならないよう気を配り、飲み物の選択肢を増やしたり、適時管理栄養士からの助言を得ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを個別で行なっている。上手く磨けない人や仕上げ磨きが必要な方には職員が付き添って手助けをしている。定期的な入れ歯洗浄や歯ブラシ、コップの消毒も行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの配線パターンを把握した上で、時間ごとの誘導や声掛けを行なっている。排尿量も観察しながら適切なパットを選んで使用している。失禁があった際は本人を傷付けないよう配慮している。	現在、リハビリパンツ使用者4名、布パンツ使用者3名、リハビリパンツとパット使用者が2名となっている。排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、付き添い、介助等は一人ひとりの状況によって対応を変えている。水分は毎日1.5~2ℓを摂取するようお茶の時間を5回設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量、乳製品は毎日一定量摂取出来るよう支援している。管理栄養士と相談しながらメニューに食物繊維の多い食材を取り入れ、便秘にならないよう工夫している。散歩や体操、日常的な家事等で身体を動かす機会を持つようになっている。時にはかかりつけ医にも相談し助言をもらっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	夏場は週3回、それ以外では週2回決まった曜日で提供している。曜日は固定だが時間帯は本人のタイミングに合わせて提供している。	火曜日と土曜日の週2回、午後の時間帯を入浴の時間としている他、夏場は木曜日をシャワー浴の日としたり、入浴時間帯を変更するなどの調整を行っている。脱衣所には床暖房、扇風機がある。2、3名の一般浴槽に気の合う利用者同士で入浴できるよう工夫しており、歌を歌ったりおしゃべりをしている方もいる。現在、入浴を拒否する方はなく、異性介助に抵抗がある方は同性介助としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムが整うよう散歩や体操、家事等で活動量を増やし、昼寝をする時間も設けている。休む際は室温、掛物、明るさに気を配っている。昼寝をしない方には、和室や談話室等、好きな場所で過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	いつでも確認できるようファイルにまとめている。薬が変更になった際は説明書に目を通し、詳細な記録をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	畑作業や毎日の家事、季節ごとの行事などを楽しめるよう支援している。誕生会や昼食会では食べたい物を聴き取りしメニューに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	敷地内を散歩したり、畑の草取りや野菜の収穫など日常的に外に出る機会作っている。その他、ドライブや食材の買い出しなども一緒に行なっている。家族と一緒に外食や買い物をする方もいる。	共有スペースの外にウッドデッキ、その先に畑があり、利用者はウッドデッキから長靴を履いて畑作業に出ることができる。施設の外にはベンチがあり、天気の良い日は外気浴や散歩をすることで、夜の睡眠に良い影響がある。ドライブは道の駅、産直、おまつり、お花見、紅葉狩り、あじさい祭り等、積極的に外出の機会を設けている。	

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望により少額のお金を所持している方もいるが、ほとんど方は職員が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者から家族や親せきに年賀状を出して喜ばれている。利用者から電話を掛けることは無いが要望があれば職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節毎に装飾物を変えたり行事の写真を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。トイレの場所を分かりやすくするために貼り紙、浴室には暖簾をかけている。熱中症指数計も活用し安全で快適に過ごせるようにしている。	共有スペースには、テーブルや椅子、ソファ、エアコン3台、加湿器が備え付けられている。共有スペースの周囲に居室が配置され、天窓や居室から光や風が差し込み、明るく過ごしやすい雰囲気がある。壁には利用者の作品や季節の装飾があり、利用者は、テレビやDVDを見たり、本や新聞を読んだり、洗濯物をたたんだり、雑巾縫いをするなど、思い思いに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や和室には作品や写真を飾り、楽しめる空間づくりをしている。談話室には雑誌や新聞を置きいつでも読めるようにしている。和室にコタツやテレビを置きゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	思い出の物や馴染みの物を持ってきてもらい居心地よく過ごせるよう工夫している。居室には作品や家族写真、好きな植物を飾っている。	利用者の居室のうちエアコンが設置されているのは2室。FFファンヒーター設置が7室となっている。ベッド、布団、クローゼットが配置され、利用者は、収納ケースやテーブル、ポット等を持ち込み、家族の写真や手紙、自分の作品等を飾り、それぞれが居心地の良い空間を作っている。現在、テレビの持ち込みはないが、パソコンを持ち込んでいる方が1名ある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下にはほうきとちり取りを置き、いつでも掃除ができるようにしている。居室が分かるように名前や写真を貼っている。		